

## 一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する「Well-being（幸せ）を保障する教育」の実現を目指して

### — 予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーをはぐくむために —

皆様、おはようございます。

令和6年の仕事始めに当たり私から一言ご挨拶申し上げます。

さる、1月1日に発生した能登半島地震において、尊い命が失われ、大変な苦しみが続いております。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被害に遭われた全ての方に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、去年は、世界中が新型コロナウイルスとの共生やポストコロナを模索している中、戦争による国際情勢の悪化とそれに伴う世界的なインフレ等により、日本社会は一層複雑な構図の中に置かれ、今後も予測困難な変化が続くことを予想させるような1年でした。

一方で、児童生徒1人1台端末に象徴されるように、コロナ禍が加速させた大きな社会変化の一つであるデジタル化が、一定の浸透をみせています。

このような中、国は、昨年4月にこれからの未来を展望し、こども施策を社会全体で総合的かつ強力で推進していくための包括的な基本法である「こども基本法」を策定し、基本理念のほか、こどもの意見を反映させること等について定めました。また、同年6月には、2040年以降の社会を見据え、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げた「第4期教育振興基本計画」を策定しました。私たちは、人類を脅かした感染症のパンデミック後の「未来の教育」という未知の大海原へ出航するに当たり、これらを教育の方向性を示す「羅針盤」とし、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営みであるとの自負を持って突き進まなければなりません。

私たちの日常に目を向けますと、新型コロナウイルス感染症が、昨年5月に5類に移行し、日本中で様々なイベントやお祭りが4年ぶりに開催され賑わいを見せておりました。公民館や図書館、博物館等の各生涯学習関連施設においては、魅力あふれる講座や展覧会に予想を上回る市民の皆さんが集い、各学校においては、運動会や合唱祭、周年行事等に多くの保護者や地域の皆さんが参加するなど、たくさんの笑顔が戻ってまいりました。

また、学習面においては、全国学力・学習状況調査において素晴らしい結果となり、特に英語教育実施状況調査においては4回連続日本1位となっております。これもひとえに、パンデミックに翻弄された中であっても、成すべきことを成し遂げた子どもと教職員の努力の賜物と捉えております。

一方、スポーツや文化活動においても子どもたちの勢いは止まることはありませんでした。

宮原中学校女子駅伝と常盤中学校野球部の全国大会出場や、土屋中学校吹奏楽部の全国大会金賞、大宮南小学校吹奏楽部の全国大会金賞、浦和高等学校のディベート世界大会での日本初となる決勝進出など、本市の子どもたちが世界や日本国中の仲間と競い合う中で、目覚ましい活躍を見せてくれた1年でした。

しかしながら、昨年12月に国が示した令和4年度のいじめや不登校等に関わる実態調査結果においては、その数値が全国的に過去最高となり、本市も例外ではありませんでした。

私は、昨年の9月の定例会一般質疑において、「日本一の教育都市」で育った子どもは、「日本一幸せな子ども」になってほしいと答弁をいたしました。このことを実現するに当たり、教育委員会と学校がスクラムを組んで、困難や課題を抱えている「目の前にいる子どもの幸せ」と、AIと共存していくであろう「子どもの将来の幸せ」を保障しなければなりません。

その前提として、教育を通して到達すべき理想となる子どもの姿とそれを支える大人の姿をここで共有したいと思います。

まず、その子どもの姿とは、学校で学んだことを地域社会で生かし、多くの他者と協働して、自分の考えや行動で、自身の生活や世の中を少しでも変えようと行動する姿です。子ども達には、自分の幸せな人生と豊かな社会を創造するために、自ら学びを更新し、自分の頭で考え、主体性を持って行動できる力、つまり、「エージェンシー」が必要不可欠と考えます。

次に、我々大人の理想の姿は、一人ひとりが自身の力の限界を知った上で、多様性に富んだ人々と協働しながら、新たな価値観と創造力を働かせ、ダイナミックな改革に挑戦していく姿です。つまり、子どもに携わる全ての大人がエージェンシーの主体となり、大人自らが考え主体的に行動するという、子どものロールモデルにふさわしい姿です。

そこで、令和6年の年頭に当たり、これから本市の教育の進むべき方向性を3つお示しします。

## Ⅰ さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）」の推進により、一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、Well-being（幸せ）を保障する教育の実現

現在、学校では、1人1台端末やクラウド等のICT環境の下、デジタルの優位性を活用した教育活動が展開されるようになり、教える側主体から学ぶ側主体へと学びのあり方が大きく転換しようとしています。そこで、SSSPのビジョンである「一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、新たな価値を創造していく力をはぐくむ教育の実現」に向け、「学び方」「教え方」「働き方」にICTの効果的・効率的な活用という横串を刺し、ダイナミックな教育改革をこの4月より本格的に推進してまいります。

「学び方改革」では、子どもがICTを駆使して、自分の学びの履歴や友達の学習過程を確認しながら、自らの学びを調整し自分の力で主体的に探究を深めたり、グローバルな交流等を通してものの「見方・考え方」を広げたりすることができるようになります。また、「教え

方改革」では、教職員がスクールダッシュボードに日々蓄積される各種教育データをフルに活用することで、これまで以上に子ども一人ひとりへの最適な指導・支援が可能になり、授業改善と指導力向上が期待されます。さらに、「働き方改革」では、校務用端末を活用した校務の効率化による業務改善を通して、教職員が子どもの変容や成長を間近で見守り、人間形成に深くかかわる時間を生み出すことができるようになることから、教職員のやりがいや働き甲斐が高められると考えます。

このような教育改革により、本市の教育の質がこれまで以上に向上することが期待されるため、子どもと教職員双方の Well-being（幸せ）が保障されるものと考えます。

## II 教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）とリアルが創り出す、誰一人取り残さない多様な学びの実現

これからの時代において、誰もが安心して楽しく学び続けるためには、学校や生涯学習関連施設の他、民間やNPOによる第三の居場所に加えメタバース上の空間など、多様な居場所と学びを保障することが重要です。

そこで、誰一人取り残さない教育の実現を目指し、これまで培ってきた「不易」と、DX（デジタルトランスフォーメーション）の力を借りた「流行」を、バランスよく組み合わせた「新しい時代の教育」を力強く推進していかなければなりません。

現在、教室には様々な特性を持つ子どもが存在し、中には、その特性を背景とした困難を抱えていても一見困難に直面しているように見えず、見過ごされがちなケースもあります。また、学校に馴染めず苦しむ子どもも一定数存在し、不登校児童生徒数は、令和4年度2,103名となり年々増加傾向にあります。

このような中、本市では、ICT環境の下、子ども一人ひとりの状況に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする「協働的な学び」、さらには新たな居場所となるメタバース空間上の教室や自習室等での学びなど、多様な学びの選択肢を提供してまいりましたが、これらはどれも緒に就いたばかりです。また、この4月には全ての学校で、登校はできるものの教室に入れない子どもを対象とした居場所として、校内教育支援センター「S o l a(ソラ)るーむ」や、子どもが放課後に安心して過ごせる居場所として「さいたま市放課後子ども居場所事業」が導入されます。

今後、子どもたちがより多様化する中で、空間的・時間的・物理的制約を超えたデジタルの力の全面的な活用と、体験活動や交流活動などのリアルの組み合わせにより、安心・安全な居場所・セーフティネットの確保と、全ての子どもたちの可能性を最大限引き出す共生社会の実現に向けた教育をこれまで以上に推進してまいります。

併せて、生涯学習関連施設においては、すべての市民が豊かな生活を送るためのデジタルデバイドの解消や、障害や病気、子育て等で生涯学習に参加をしたくても参加できない方々

のために、デジタルと対面による柔軟で魅力あふれる学習の機会の一層の充実と、社会教育主事など学びをコーディネートする人材育成にも注力してまいります。

### Ⅲ 幸せな人生と豊かな社会の創造を循環させるエンジンとなる「コミュニティ・スクール」の推進

コロナ禍を経て、常識や慣習が大きく変化する中で、大人の価値観が大きく変わり、そのことが子どもにも影響していると考えます。新型コロナウイルス感染症が5類に移行後もマスク着用やワクチン接種の可否、健康か経済活動かなど、価値観が多様化する中で、学校・家庭・地域・行政は、これまで以上に連携・協働することが必要です。

Well-being（幸せ）が実現される持続可能な社会とは、学校という「生涯の学びの拠点」を核として、子どもたち一人ひとりが幸福や生きがいを感じられるような学びを、教職員と保護者や地域の人々が共に創っていくことを通して、学校に携わる全ての人々の Well-being が高まり、その広がりが地域の人々や地域そのものを支えるという循環型社会だと考えます。その循環のエンジンとなるのが、「コミュニティ・スクール」です。

今年は、地域コミュニティに根差した個人と地域全体の Well-being の向上のために、地域社会の担い手となる子どもの声が、学校運営や地域活動などに反映されるようコミュニティ・スクールを一層推進してまいります。加えて、子どもが主役となりエージェンシーが発揮される場面や機会の創出に向け、生涯学習関連施設をはじめとした地域学習資源の積極的な活用促進と、企業・NPO、大学等多様な担い手と連携・協働した学習環境の整備に努めてまいります。

皆様方、ご一緒に「一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する『Well-being（幸せ）を保障する教育』」の実現に向け、どのような困難にもひるまず、前を向いて果敢に挑戦してまいりましょう。

新しい年が、皆様にとって幸多き、素晴らしい年となりますことを心から祈念し、年頭に当たったの訓示といたします。

皆様方、本年もどうぞよろしく願いいたします。

令和6年1月4日  
教育長 竹居 秀子